



がん医療フォーラム2013 -患者の立場から-

一般社団法人
グループ・ネクサス・ジャパン
理事長 天野 慎介



自己紹介



- 1973年 東京都生まれ 慶應義塾大学商学部卒
- 2000年 悪性リンパ腫を発症、化学療法を受ける
- 2001年 大量化学療法併用自家末梢血幹細胞移植を受ける
- 2002年 悪性リンパ腫を再発、放射線治療を受ける
 - ✓放射線治療の副作用で、間質性肺炎を発症
 - ✓間質性肺炎治療の副作用で、左目に進行性網膜外層壊死を発症し、視力を失う
- 2004年 悪性リンパ腫を再発、化学療法を受ける

- 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長
- 厚生労働省がん総合相談研修プログラム運営委員長
- 文部科学省がんプロフェッショナル養成推進委員会委員
- 沖縄県がん診療連携協議会がん政策部会長
- 千葉県がんセンター倫理審査委員会委員
- 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
- 日本緩和医療学会倫理・利益相反委員会委員
- 骨髄移植推進財団(日本骨髄バンク)医療委員会委員

がん告知の記憶



がん患者のストレスへの心の反応

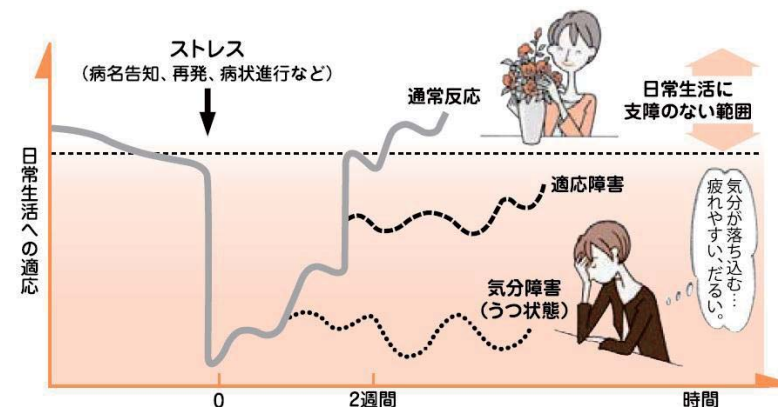


図1：ストレスへの心の反応

「患者必携 がんになったら手にとるガイド」(国立がん研究センターがん対策情報センター)より

再発



- 納得のいく治療を受けたという気持ちがあった
- 理屈では「しょうがない」とわかっている
- しかし、心は折れそうになっている



「私たち医師は、どのような状態になっても、
打つ手はあると信じて治療をしています。
どのような状態になっても、手を尽くしますから、
ともに頑張りましょう」

「インフォームド・コンセント」



(英) Inform Consent
(和) 説明



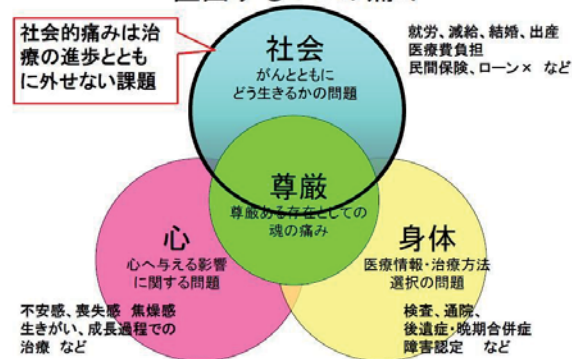
(英) Informed Consent
(和) 説明と説明

治すことは時々
和らげることはしばしば
慰めることはいつも
(アンプロワーズ・パレ)

身体的・精神的・社会的な苦痛



小児がんを含む、がん経験者が
直面する4つの痛み

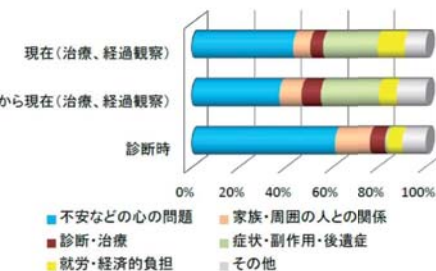


厚生労働省第27回がん対策推進協議会(2011年11月2日) 桜井なおみ参考人提出資料より

身体的・精神的・社会的な苦痛



診断・治療期・経過観察の時期の悩み(7000名への調査)

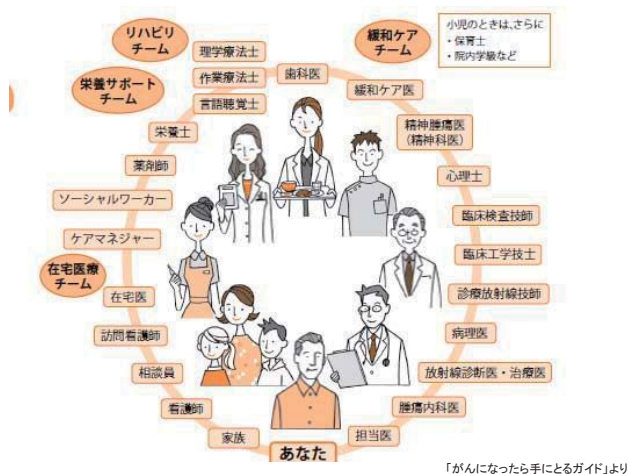


診断・治療期・経過観察を通して、患者・家族の抱える
一番大きな問題は心の問題である

「がんと社会学」に関する合同研究班 報告書より

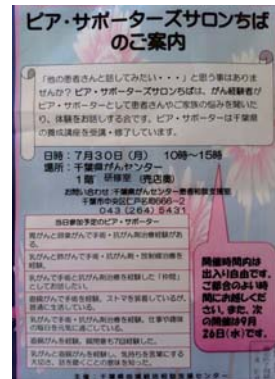
厚生労働省第29回がん対策推進協議会(2011年12月12日) 天野慎介委員提出資料/日本サイコoncロジー学会提供参考資料より

患者や家族を支える医療者たち



「がんになったら手にとるガイド」より

がん患者や家族などによるピアサポート(千葉県がんセンターの例)



(ピアサポーターによるがんサロン)

(ピアサポーターによる相談スペース)

- ・ 看護師、MSW、ピアサポーターが連携してがん患者や家族に対する支援を行う
- ・ 県主催による研修を受けたピアサポーターが参加する、がんサロンを院内で開催

がんサロンの例



院内のがんサロン

院外のがんサロン



(熊本赤十字病院)



(NPOがんサポートかごしま)

がんサロンの例



がん教育(葛飾区立堀切中学校)



がん医療フォーラム2013

13

石巻市の日和山公園より海岸を望む



2013年8月28日撮影

がん医療フォーラム2013

14